



り一週間後にも放送してしまつた。今後は、担当課立会いのもとで機械操作をして再発を防止する。

●民生費

児童遊園地

問 児童遊園地を減らす考えはあるか。

また、遊具の安全性は。

答 児童遊園地、児童遊び場、チビッコ広場は市内に八十数カ所ある。有効利用していただいている遊園地は継続していきたい。また、地元から閉鎖をしてもよいという声があれば、話し合つて対応していきたい。

遊具は、危険のないように年一回業者が点検をしている。

●衛生費

人間ドック

問 人間ドックは市が一億円もちだして実施しているが、その利用人数は。

また、それだけの税金を使い市が実施していくべき事業か。

答 平成十五年度の利用者は二千九十九名である。また、人間ドックは市民の健康に必要な事業であるので、今のところ廃止する考えはない。

●農林水産業費

市民小菜園

問 利用希望の多い市民小菜園を街の中につくることはできないか。

答 場所の選定は農業委員による投票で行っている。

市民小菜園(神ノ郷)



市街地であつても、水や駐車場の確保出来る場所があれば設置することは可能と考える。

●商工費

特産品のアピール

問 県観光協会ホームページの市町村特産品の欄で、

9月定例会の日程

8日	本会議[会期の決定、議案説明、一般質問など] 決算審査特別委員会
9日	本会議[一般質問]
10日	本会議[一般質問]
14日	決算審査特別委員会
15日	決算審査特別委員会
16日	決算審査特別委員会
22日	本会議[委員長報告、質疑、討論、採決など]

蒲郡市には何も掲載がされていない。もつとアピールしていくべきではないか。

答 特産品が、観光とうまく連携していない部分があつた。現在、観光という切り口から特産品にスポットを当てるといふ取り組みを観光PRの中で始めている。

●土木費

ストック活用計画の成果

問 計画策定の結果、今後の市営住宅のあり方はどういふ方向付けがなされたか。

答 平成二十五年までに九団地三百九十戸のうち木造平屋建の四団地は建替え、残り五団地は既設建物の耐震が確保されており、維持改修の方針である。

最終的には四百十戸とする予定だが、現在不足しているシルバー、単身者向け住宅をふやすこととしている。

●消防費

震災対策

問 家具転倒防止器具設置事業があまり利用されていない。利用が進まない理由は何か。

家具転倒防止器具



答 壁、柱、家具に傷が付くことや、取り付け時に他人が寝室や居間に入ることなどに抵抗があるなどのため、利用が進まない。

問 木造住宅耐震診断を受けた家屋の中で、倒壊または大破壊の危険ありとされる総合判定〇・七未満の家屋の割合はどれくらいか。

答 約七割の家屋が〇・七未満と判定されている。

●教育費

学校給食で国際理解を

問 子どもたちの国際理解を深めるために、学校給食のメニューに輸入食材の外国産地表示をすることは可能かどうか。